ここでしか経験できないことがある

情報流通行政局放送技術課映像計画係長
併任　情報流通行政局放送政策課係長

山本 直紀　YAMAMOTO Naoki

平成 28年 4月　総務省採用
　　同　総合通信基盤局電波部電波政策課
　　7月 併任　総合通信基盤局電波部電波政策課電波利用料企画室
平成 29年 7月　同　総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課基幹通信室
令和 元年 7月　同　総合通信基盤局総務課総括係長
令和 2年 8月 現職

みなさんは「総務省」がどのような仕事をしているイメージを持っていますか？日常生活を振り返ってみると、スマホで情報収集したり、テレビ番組を見て過ごすなど、ICTが生活の隅々まで浸透していることに気がつくと思います。総務省では、このようなICTに関する政策を所管し、くらしに直結する仕事を幅広く担当しています。

これまでに携わった仕事

私は係員のときにWi-Fi 6の国内利用に向けたルール作りなどに取り組みました。情報通信分野では、新しい技術が短いスパンで次々と登場します。総務省では、これらの技術を早期にくらしに生かせるよう、スピード感を持って仕事を進めており、私も上司の指導を受けながらルールをまとめました。

ルール作りでは、関係者との調整が大きな仕事の1つになります。例えば、無線LANは気象レーダなどと同じ周波数帯の電波を使いますので、新しい技術の導入に当たっては、早期の実用化を望む側と従前どおりの電波利用を望む側の双方が理解し、了解できるように調整を重ね、結論を出す必要があります。このような調整は、民間同士の議論では決められないので、我々、技術系公務員が調整とルールの具体化を行う必要があります。国のために必要な仕事に携われていると思うと、とてもやりがいを感じましたし、また、入省時からICT分野に明るくなくても、先輩などから教われる環境が整っていますので、勉強しながら調整やルール作りを進めることができました。

このほかにも入省して5年間で、無線技術の海外展開や局内の国会・災害対応、地上波デジタルテレビジョン放送に関わる仕事に携わってきました。総務省では、このように多彩な業務に携わることができます。

総務省の魅力とは

総務省の魅力といえば、成長が著しいICT分野に携われることです。公務員生活の中では、仕事の途中で人事異動を挟むことが珍しくありませんが、短いスパンで新しい技術が登場するICT分野では、仕事の始めから終わりまでを主体的に取り組むことができます。家電量販店に「Wi-Fi 6対応」と書かれた商品を見たときは、仕事にとてもやりがいを感じました。このような仕事は、民間企業では経験できない、総務省ならではのものだと思います。

コロナ禍では様々な場面でICTの活用が期待されています。ICT政策の企画・立案に携わってみたいと少しでも思ってくれた方、ぜひ総務省の門をたたいてみてください。皆さんと一緒に仕事をできる日を楽しみにしています。

仕事帰りに同期と

日独共同研究の関係者達と

在ドイツ日本国大使館一等書記官

瀬田 尚子　SETA Naoko

平成 19年 4月　総務省採用
　　同　情報通信政策局通信規格課
平成 20年 7月　同　総合通信基盤局電波部電波政策課
平成 21年 7月　同　総合通信基盤局電波部電波政策課第一計画係長
平成 23年 9月　同　総合通信基盤局電気通信事業部データ通信課専門職
平成 26年 4月 国立研究開発法人情報通信研究機構経営企画部企画戦略室マネージャー
平成 28年 7月 総務省総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課重要無線室課長補佐
平成 30年 8月　同　国際戦略局技術政策課課長補佐
令和 元年 6月 現職

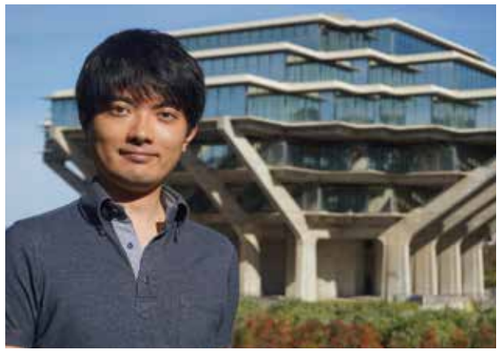
ドイツでの国際連携の模索

皆さんはドイツには、どのようなイメージを持っていますか。

ドイツのGDPは日本に次いで世界第4位で、欧州経済のけん引役です。しかしながら、ベルリンから車で1時間も行けば携帯は圏外になるなど、特にコロナ流行後は、通信インフラの整備拡大を含むデジタル化が重要な課題の一つとされています。また、ナチス政権時代や旧東ドイツ時代の反省から、言論や報道の自由が重視され、データ保護への意識が高いことも特徴です。

大使館では、背景や現状を勘案しつつ当地のICT政策や業界動向の収集・分析、それらに基づく政府機関等への働きかけ、日本企業や自治体等の支援を行っています。例えば、AI分野での日独共同研究の会合が当地で行われた際には、日独政府と連携して開催を支援しました。関係者を大使公邸に招いてのレセプションは大変好評で、こういった形で日独連携を側面からサポートしています。日独は共通点も多く更なる連携の可能性を秘めています。そのような中、日本の施策や技術を関係者に積極的に紹介することも重要な仕事です。これまで国内で技術系行政官として培ってきた幅広い経験や知見は、外交の場で強みになります。

海外では言葉の壁や価値観の違いに戸惑い、否応なしに世界観は広がります。日本の将来像を大局的に考える機会でもあり、グローバルな環境で自身を成長させる機会でもあります。国内外の多様なフィールドでチャレンジしたい方は、ぜひ総務省の扉を叩いてみてください。



カリフォルニア大学サンディエゴ校

山内 匠　YAMAUCHI Sho

平成 24年 4月　総務省採用
　　同　情報流通行政局放送技術課
平成 26年 8月　同　総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課移動通信係長
平成 29年 7月 内閣官房番号制度推進室・内閣府大臣官房番号制度担当室主査
平成 30年 4月 総務省総合通信基盤局電波部電波政策課課長補佐
令和 2年 7月 現職

激動のアメリカ留学！

私は今、激動のアメリカ合衆国で公共政策を学んでいます。

留学の時期がちょうど大統領選挙とCOVID-19に重なり、最先端の技術と科学、政治が入り乱れれる様相を日々目の当たりにしています。まさに科学技術と公共政策が試されている場面で、教授や学生仲間と議論を交わしています。

大学院では、テクノロジーの応用という観点で公共政策を学んでいます。私はコンピュータサイエンスのバックグラウンドがあり、総務省の仕事でもよくプログラミングを活用しています。そのため、パンデミックの中、行政機関が感染情報ページをオープンソースで迅速に開発したり、感染予測モデルの構築に機械学習が活用されたりといった報道を見て、行政官として勇気づけられ、技術者としてじっとしていられない気持ちになりました。この希望を形にするため、優れた技術をいかに実装すべきか、大学院での研究を進めています。

海外生活を始めたことで、間違いなく視野が広がりました。技術と政策は世界を舞台に動いている、ということを知識として持っていても、これまで無意識に日本を基準に考えていたと実感します。交通規制や医療保険、スーパーでの買い物など、日常生活でもカルチャーショックの連続で、日本を相対的に考えるきっかけになります。激動の今だからこそ見える文化を体験し、吸収していきたいと思います。